

# 達磨の経済考

## 高野山真言宗慈明院名誉住職

吉住 明海

ある日、その肉の在庫が無くなってしまった。どうしても食べたくて、まだ生きている馬のうちから、年老いて、使い物にならない、馬を選んで、殺して食べたのである。

その老馬が靈となつて、長司の首に喰らいつき、馬を殺した時刻になると、体の中に入ってきて、内臓を食い破る。

あまりの苦痛と怖ろしさに、長司は狂い死にしてしまった。その死に顔は、重い荷を担がされた馬のような表情であった。

私たちの世代はまだ『もつたいない』と、食べ残しをする場合でも、キチソと食べられる分量を考え、入れ物を変えて、きれいに残すものだが、最近、若い女性でも、食べ残しが汚い人を良く見かける。

馬にとどまらず、牛・豚・鳥・魚すべてに、生命が宿っている。

野菜でも果物であれ、他の命を頂くわけである。感謝し、お陰様での気持ちが無ければ、塩の長司の苦しみを、受けるかも知れない。美味しい物とは、そんな事かも知れない。

生物の食物連鎖の頂点に、人間がいるのが、地球の不幸なのかも知れない。どうかの学者が言っていた。

「和尚、馬刺し食べないかい。」

熊本の友人から電話が入った。

「馬刺しか。。。いいねえ タテガミの白いのが、たまらんなんあ」 午年に馬を喰らうか。。。 およそ坊主の考える事ではないのだが。。。

『江戸時代、現在の石川県 加賀の国に 塩の長司という男があり 二百頭ばかりの馬を飼っていた。死んだ馬の肉が、大好物で、味噌漬けだの塩漬けの馬肉を、毎日食べていた。



## 商品紹介

# おなかいきいき健康法 ベーシックセット

「元気の元は胃腸から」、おなかの健康は病気予防の原点です。  
「おなかいいき健康法」のベーシックセットで、ストレスに負けないからだを作りましょう。



**合計12,600円**  
(本体12,000円)

第二章

カンは自分で消せる。

安保  
マキノ著  
衛

ガンは自分で治せる

満まん堂学術顧問  
佐々木 俊雄氏

外因性の要因はガン全体の三割程度で、内因性の要因、つまり働きすぎや心の悩み、薬の使いすぎなどその人の生き方そのものに原因があります。心身にストレスとなって強力に交感神経緊張状態を招き、顆粒球增多→活性酸素の大量発生→組織破壊→リンパ球の減少→免疫力の低下→分泌機能の低下とガンを呼び込む体調を作り上げています。

短期間に働きすぎの人は赤血球が顆粒球によって破壊され、赤血球の連鎖現象によって血流障害にて心筋梗塞などにて倒れます。

長期にわたる過重労働の場合、細胞の分裂増殖が速いスピードで進行し、組織が何度も再生を繰り返すうちに細胞増殖関連遺伝子に異常が起こり、増殖の調節が利かなくなり、無限の増殖に驅り立てる遺伝子になってしまします。

心の悩みもまた交感神経の持続的な緊張を招きます。すると顆粒球の增多、血流障害、組織破壊、免疫力の低下と言う一連の現象が起こり、発ガンします。

痛み止めはプロスタグラニンが作られるのを抑える働きがあり、これが產生されないと交感神経にブレーキがかけられなくなり、顆粒球が増え、活性酸素が多量発生して組織破壊が進み、ガンとなる。薬物への依存を断つことが大切です。

抗酸化作用のあるサプリメントは過剰摂取すると体内に酸化物として停滞しこれが活性酸素を発生させる。大量に摂ると発ガンリスクが上がりります。

う意見は半々になつています。

第二の理由はガン検診で要精密検査などと告げられたときの恐怖が発生は実際に見つかる人の20倍ぐらいであるとの事ですが、恐怖心は消せません。

検診を勧めない理由その三

自己検診のほうが、それをきっかけに生活を見直し、副交感神経を刺激する生活を送りガンを早目に治すことが出来るからです。

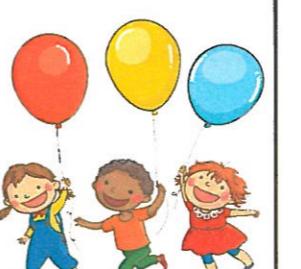
普段の生活で体調をチェックするほうが大切です。

- 顔色が悪い
- 疲れやすい
- 食欲が無い
- 眠れない

などの症状があれば、働きすぎていなか。悩み事に押しつぶされそうになつていなか。特定の薬を飲み

ガンにならない為の六か条

- ①過労を避け、十分な睡眠
- ②心の悩みを抱えない
- ③腸の働きを高める
- ④血行をよくする
- ⑤薬漬けから逃れる
- ⑥ガン検診を受けない



続けていいのか。暴飲暴食が続いているかなど思い当たることがあれば、それを取り除いて様子を見る。それでも体調が回復しないとなつたら検査を受けると良いでしょう。

